



ろうさい病院つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.roufuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

副院長就任のご挨拶

中部ろうさい病院 副院長・麻酔科部長
中央手術部部長

若松 正樹



本年2月1日付けで副院長を拝命しましたので一言ご挨拶申し上げます。本誌は発行以来13年を経過しましたが、発刊当初は広報委員会の一員として原稿依頼に奔走したのを懐かしく思い出します。『ろうさい病院つうしん』の命名は私案が発端であったと記憶しております。地域医療構想の策定作業が進む今日、診療所や長期療養型病院等の地域医療機関と当院とがともに生き残るためにも両者の架け橋となる本誌をさらに発展させていく必要があります。

私の最大の使命は手術室稼働率の向上であります。安全でかつ良質な手術を提供するには最先端の医療機器や高い技術力をもつ術者のほか、手術侵襲と生体反応のバランスを裏方に徹して調整する麻酔科医の存在が不可欠であると信じております。これまで手術麻酔と集中治療を守備範囲としてきたため、諸先生方と直接お話しする機会はなかったと存じますが、35年間培ってきた麻酔科気質を今後は病診連携において役立てたいと考えております。

現在、中部ろうさい病院は地域医療支援病院、

愛知県がん診療拠点病院、災害拠点病院等の施設認定を受けております。各診療所⇄当院間の紹介患者数や逆紹介患者数の推移を見ると、この5年間でそれぞれ34%、69%の増加を認めております。これも地域医療連携室を窓口に関わり合いを深め、偏に皆様方からご協力を賜ったお陰であると深く感謝しております。同様に、開放型病床やCT・MRI等の高額医療機器も利用件数が順調に増加しておりますが、さらに利便性を高め医療連携の推進に尽力したい所存です。なお、13年前の発刊号で提言された将来計画のうち、手術室のオープン化は手付かずのまま残っております。曜日や麻酔法を問わず、実現に向けて真摯に取り組みたいと存じますので、ご要望があれば是非一報をお寄せ下さい。外科系諸先生方の手術室利用を心待ちにしております。

今後とも、当院へのご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。副院長就任のご挨拶とさせていただきます。

心療内科へのご紹介について

心療内科部長・勤労者メンタルヘルスセンター長
治療就労両立支援センター両立支援部長 芦原 睦



勤労者メンタルヘルスセンター心療内科については、今まで「MHC・心療内科」と略してきましたが、本年4月より両立支援部長という辞令を頂きました。もはやどのように略せばわかりません。ここでは心療内科ではどのような業務を行っているのか、再度病診連携の先生方にご紹介したいと存じます。

当院心療内科の担当は「内科医」です。日本心療内科学会「心療内科専門医」は本邦にまだ130人弱しかおりませんが、日本内科学会の認定内科医の資格をベースに授与されるものです。自由標榜が原則のため、一般内科医、精神科医も「心療内科」を標榜できますので、よく世間が混乱しています。しかし、当院には「精神科」「神経内科」も併存するために、当科ではことさら正しい心療内科にこだわって診療を続けています。

心療内科の対象疾患は、頭痛、円形脱毛症、痙攣性斜頸、むちうち症、咽喉頭異常感症、過換気症候群（HVS）、高血圧症、低血圧症、パニック障害、気管支喘息、過敏性腸症候群（IBS）、胃十二指腸潰瘍、摂食障害、身体表現性障害（自律神経失調症など）、慢性疼痛、更年期障害、不眠症など多岐にわたります。

また、筆者は、以前リウマチ・膠原病内科に属しており、現在も日本リウマチ学会「リウマチ専門医」を有しています。そのため、上記の心身症一般に加え、RA、SLE、シェーグレン症候群（SjS）、線維筋痛症（FM）や関節にまつわる不定愁訴などの病態も多く受診されています。

さて、器質的所見に合わない症状や不定愁訴をみたとき、どのような基準で心療内科にご紹介いただいているのでしょうか？一番の臨床的な方法は“先生方の眼前の患者さんがもう少し混乱されても、内科病棟の大部屋で管理できるか否か”です。

これには以下のことが含まれています。

すなわち、

- 1) 自傷他害の恐れがないこと（希死念慮、自殺未遂歴にはご注意くださいと思います）
- 2) 幻覚・妄想がないこと
- 3) 自ら受診動機があり、治療意欲があること

要するに、治療にあたるのは「精神保健指定医」ではなく、「内科医」ですし、当院には精神病床はありませんので、内科病床における治療には限界があるということです。

外来は完全予約制をとっています。患者さん本人から052-652-5749（平日の15時から17時）にお電話いただきたく存じます。

最後にメンタルヘルスセンター（MHC）と治療就労両立支援部では、メンタルヘルス不調のために出勤できなくなった方の支援をしています。MHCでのご相談は本人でなくても構いませんが、健康保険は使用できませんので注意が必要です。

心療内科では身体的・心理的・社会的な観点から全人的医療を行っています。お気軽にご相談いただければと思います。

CONSTELLATION® VISION SYSTEMについて

眼科部長代理 照井 隆行



先生方には日頃から大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。今回は、最近、当院に導入された白内障・硝子体手術装置（CONSTELLATION® VISION SYSTEM）について紹介させていただきます。

CONSTELLATION® VISION SYSTEMは、当院で長らく使用されてきた白内障・硝子体手術装置ACCURUS® SURGICAL SYSTEMの後継機種で、世界中で最も普及しており、我が国では2011年6月に認可されました。

CONSTELLATION® VISION SYSTEMの硝子体手術装置としての特性は、まず、新しい駆動システムによる硝子体カッターを採用していることです。従来の硝子体手術装置ではガス圧とバネによるニューマチック方式の硝子体カッターが広く使われてきましたが、その性能はバネの特性に依存するところが大きかったため、バネの特性に依存しないガス圧駆動方式（デュアルエア駆動方式）を採用することで、効率の良い安全な硝子体切除が可能となりました。また、硝子体手術中に駆逐性出血などの深刻な状況を引き起こす原因の一つに術中の低眼圧がありますが、CONSTELLATION® VISION SYSTEMではカセット内に圧センサーが備わっており、急激な眼内圧の低下に対して、瞬時に灌流量を増やして眼内圧を一定に保とうとするIOPコントロールシステムが搭載されているため、手術をより安全に施行することが可能となりました。さらに、キセノン光源が標準装備されているため、23ゲージ、25ゲージといった小さい口径でも十分な照度が提供され、良好な視認性

により、手術の質、安全性の向上が見込まれます。

白内障手術装置としても、オシスレーションシステムが搭載されており、ベンチュリーポンプによる吸引効率と気圧コントロールによる前房保持機能がバランスよく保たれ、安定して滑らかな超音波破碎吸引が可能となっているため、今までは水晶体囊外摘出術を施行せざるを得なかったような水晶体核が硬い症例においても、超音波による手術が可能になるのではないかと期待しています。

近年、白内障、硝子体手術においては小切開白内障手術、小切開硝子体手術が手術の概念として確立しており、本当の意味での低侵襲手術に向かって進化を続けていますが、CONSTELLATION® VISION SYSTEMはそのような小切開、低侵襲手術を実現するためには欠かせない存在と考えます。

こういった機器とともに、質の高い医療を目指して、これまで以上に先生方のお役に立てるように頑張りたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



栄養管理コラム 野菜を食べよう!!

～愛知県は、野菜摂取量全国最下位～

栄養管理部 室長 徳永 佐枝子



和食は今や世界の中で大ブームが起こっており、ユネスコ無形文化遺産にも登録された素晴らしい日本の文化です。春・夏・秋・冬の季節感を大切にして自然の素材の味を最大限に生かした料理法で、非常に栄養のバランスがよくヘルシーな内容が外国の方から賞賛されています。その中でも、野菜はビタミン・ミネラル・食物繊維が豊富で和食の中で大切な食材です。

そのような中、平成24年国民健康・栄養調査の中で初めて20歳以上の都道府県別野菜摂取量の平均値が発表されました。野菜摂取量の平均値が何と愛知県は男性・女性とも全国最下位でした。愛知県は、車をはじめとした工業製品だけでなく農産物の生産も盛んであり、キャベツ、冬瓜などは全国出荷量が全国1位であり、他の作物も野菜の出荷量が大変多い農業の盛んな県でもあります。そのような中で全国最下位はとても残念な結果です。野菜の摂取量が全国一位の長野県は男性379g、愛知県は243gと136gも差があります。健康日本21では、野菜の摂取量は350gが目標と設定されており愛知県は大幅に

野菜の摂取量が少ないことがわかります。原因としては色々な事が考えられますが、まずは欠食をすれば確実に野菜不足になります。また、1食に2皿は野菜料理が必要ですが、野菜を使用しない料理を食べる機会が増えているのでしょうか？どちらにしても、和食という素晴らしい食文化の中で生活する私たちにとって考え直さなければいけない結果となりました。

今後、色々な場面で野菜摂取量の向上を目指した取り組みも栄養管理部として積極的に関わっていきたいと考えております。まずは、この文章をお読みいただいた皆様から野菜を食べませんか!!

野菜摂取量の県別順位



〈男性（20歳以上）〉

1位	長野県	379g/日
2位	島根県	358g/日
3位	新潟県	333g/日
4位	東京都	332g/日
5位	山梨県	331g/日

最下位 愛知県

243g/日

〈女性（20歳以上）〉

1位	長野県	365g/日
2位	島根県	323g/日
3位	東京都	312g/日
4位	山梨県	310g/日
5位	新潟県	308g/日

最下位 愛知県

240g/日

地域医療連携室だより

平素より、連携医療機関の先生方には大変お世話になっております。

今年度は、「地域医療支援病院」の紹介率・逆紹介率の計算方法等の見直しがあり、紹介率50%、逆紹介率70%が指定要件となりました。

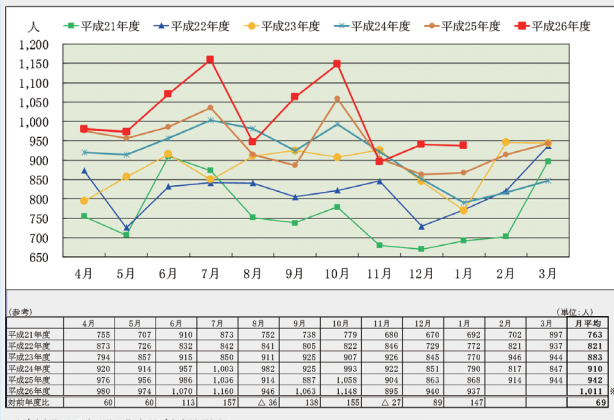
登録医の先生方のご協力により、2月までの実績で、紹介率は53%を超え、逆紹介率は86%となり引き続き基準を満たすことができる見込みとなりました。

また、紹介患者さんは、6年連続で前年度実績を上回ることができ、平成26年度も多くの患者さんをご紹介いただきました。(表)

改めて、地域完結型医療へのご理解と円滑な医療連携にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

平成27年度も引き続き、一層の信頼とご厚情を賜れるよう、急性期治療の終了した患者さんの逆紹介や、ご紹介いただいた患者さんへの高度な医療とともに、タイムリーな情報提供を心がけて参りますので、引き続きご指導とご鞭撻をお願いいたします。

紹介患者数の推移



医師交代

☆退職

(平成27年3月13日付)

山中 佑介 歯科口腔外科医師

(平成27年3月31日付)

町野 正明 整形外科医師

小池 佳勇 外科医師

水野 愛弓 外科医師

石田 衛 脳神経外科医師

本多 登代子 泌尿器科医師

野坂 麗奈 産婦人科医師

国村 彩子 循環器内科医師

河合 真理子 糖尿病・内分泌内科医師

中村 さや 呼吸器内科医師

高杉 浩司 リウマチ科医師

渡辺 充

龍華 章裕

小山 明子

☆定年退職

(平成27年3月31日付)

山田 政功 小児科部長

☆採用

(平成27年4月1日付)

竹林 三喜子 外科医師

松本 太郎 整形外科医師

白木 真由香 小児科医師

長尾 知行 循環器内科医師

寺下 真帆 腎臓内科医師

滝澤 直歩 リウマチ科医師

葉末 亮

藤原 玄

宮田 裕大

大口 雄也

宮田 知里

久賀 孝郎

灰本 千夏

金子 雄紀

青柳 えみか

☆補職

(平成27年4月1日付)

大木 隆史 小児科部長

町田 和彦 第二呼吸器内科部長

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室

(平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室

長: 加藤 文彦 (院長)

藤田 芳郎 (副院長)

事務担当: 今関 信夫・佐藤 詠子・

内藤 遵子・金井 久実